

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

Cat.No. : 5 1 2 5 9 0  
 製品名 : アンモニア No.2  
 会社名 : セントラル科学株式会社  
 住所 : 〒112-0001 東京都文京区白山 5-1-3 東京富山会館ビル  
 担当部門 : 品質保証部  
 電話番号 : (03) 3812-9186  
 FAX 番号 : (03) 3814-7538

### 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 健康有害性 急性毒性：経口：区分 3  
 急性毒性：吸入（粉塵及びミスト）：区分 3  
 皮膚腐食性/刺激性：区分 1B  
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性：区分 1  
 特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）：区分 1（吸入器系、呼吸器系）  
 特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）：区分 1（吸入器系、呼吸器系）、区分 2（肝臓、経口系、造血系）  
 環境有害性 水生毒性（急性）：区分 2  
 水生毒性（慢性）：区分 2

GHS ラベル要素：



危険

危険有害性情報： 飲み込むと有害  
 重篤な薬傷・眼の損傷  
 重篤な眼の損傷  
 吸入すると有毒（気体、蒸気、粉塵、ミスト）  
 臓器の障害（吸入器系、呼吸器系）  
 長期又は反復暴露による臓器の障害（吸入器系、呼吸器系）  
 長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ（肝臓、経口系、造血系）  
 水生生物に毒性あり  
 長期的影響により水生生物に毒性あり

注意書き：

<安全対策>  
 適切な保護手袋および保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
 粉塵又はミストを吸入しないこと。  
 環境への放出を避けること。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 <応急措置>  
 医師に連絡すること。  
 口をすすぐこと。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用  
 していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 気分が悪い場合：医師の診断/手当を受けること。  
 皮膚（又は毛）に付着した場合：直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐ/取り除く  
 こと。付着部は多量の流水/シャワーで洗うこと。医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師の手当を受ける。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 口をすすぐこと。

暴露した場合：医師の手当を受けること。

汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。

漏洩物を回収すること。

<保管>

施錠して保管すること。

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

<廃棄>

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名	含有量	化学式	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
水酸化リチウム水和物	35~40%	LiOH · H <sub>2</sub> O	1-712	1310-66-3
ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム二水和物	<2.5%	C <sub>3</sub> Cl <sub>2</sub> N <sub>3</sub> NaO <sub>3</sub> · 2H <sub>2</sub> O	5-1043	51580-86-0

### 4. 応急処置

吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。医師の手当を受ける。意識のない場合、移動の際は安静を保つ。

皮膚に付着した場合：汚染された衣類を全て脱ぐ/取り除き、直ちに付着部をポリエチレングリコール 400 で洗浄し、多量の水ですすぐ。直ちに医師の手当を受ける。洗浄を怠ると皮膚の傷害を生じるおそれがある。

眼に入った場合：直ちに多量の流水で 15 分以上洗い流す。きれいな指で瞼を開いて洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合：よく口をすすぎ、多量の水を飲ませる。嘔吐させてはならない。直ちに医師の手当を受ける。

### 5. 火災時の措置

消火剤：周囲の状況に適した消火剤を使用する。

火災時特有の危険有害性：本製品は不燃性である。

火災時に有害なガスが発生するため、消火の際には適切な保護具を着用する（塩化水素（HCl）、LiOx）。

特定の消火方法：火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合は周辺に散水して冷却する。消火のための放水などにより環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。

消火を行う者の保護：消火活動は風上から行い、有害なガス又はミストの吸入を避ける。適切な保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：作業の際は適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、蒸気を吸入しないようにする。関係者以外の立ち入りを禁止する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。風上から作業して、風下の人を退避させる。

- 環境に対する注意事項： 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。汚染された排液が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
- 回収、中和： 適当な保護具を着用してできるだけ回収する。漏洩した箇所は大量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策： 高温、直射日光を避ける。酸性物質との接触を避ける。使用の際は適切な保護具を着用する。局所排気施設内で使用する。
- 注意事項： 開封や取扱う際に粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散等しないようにし、みだりに粉塵、蒸気を発生させない。使用中に飲食、喫煙をしてはならない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は手を洗淨する。
- 安全取扱い注意事項： 吸入したり、目、皮膚および衣服に触れないように適切な保護具を着用する。使用の際は適切な換気を行う。

### 保管

- 技術的対策： 酸と同一の場所に保管しない。酸化剤と隔離する。
- 適切な保管条件： 高温、直射日光、湿気、水分を避ける。  
密閉して換気の良いなるべく涼しい乾燥した場所で保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策： 局所排気装置を設置する。  
取扱い場所の近くに洗眼施設及び身体洗淨施設を設置する。
- 管理濃度： 設定されていない
- 許容濃度
- OSHA PEL： 設定されていない
- ACGIH TLV (s)： 設定されていない
- 日本産業衛生学会： 1mg/m<sup>3</sup> (水酸化リチウムとして)

### 保護具

- 呼吸器の保護具： 防塵マスク
- 手の保護具： 対アルカリ性保護手袋
- 目の保護具： ゴーグル型保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具： 保護衣

## 9. 物理的及び化学的性質

- 形状： 錠剤
- 色： 白色
- 臭い： 塩素臭
- pH： 12.9@20°C (11.2g/L)
- 融点： データなし
- 沸点 (初留点)： 925°C
- 引火点： 適用なし
- 自然発火温度： 不燃性
- 燃焼性： 不燃性
- 爆発範囲 (上限・下限)： 適用なし
- 蒸気圧： データなし
- 比重： データなし
- 溶解性
- 溶媒に対する溶解性： 水に可溶

**10. 安定性及び反応性**

安定性：	安定
反応性：	粉末や顆粒の状態では空気と混合すると爆発のおそれがある。 水と反応する。湿気がある中で合金と反応すると水素ガスを発生する。 アルミニウム、金属を腐食する。
避けるべき条件：	日光、熱
混触危険物質：	有機物、酸、酸化剤（高温のおそれ）
危険有害な分解性生物：	塩化水素（HCl）、塩素化合物、LiOx

**11. 有害性情報**

製剤についてのデータは無い。

急性毒性：	水酸化リチウムについて 経口 ラット LD50=210mg/kg 吸入 マウス LC50=960mg/m <sup>3</sup> /4H ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムについて 経口 ラット LD50 = 735mg/kg、1823mg/kg 及び 1670mg/kg
皮膚腐食性・刺激性：	水酸化リチウムについて 動物試験のデータは見出せなかったが、各ハザードデータ集 （ICSC(1998)、HSFS(2004)、GESTIS(2006)）の記述に「皮膚 に火傷を起こす」の表現がある。 ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムについて 皮膚刺激 ウサギ LDLO=500mg/24H 軽度 皮膚刺激 ウサギ LDLO=500mg 重度
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	水酸化リチウムについて 動物試験のデータは見出せなかったが、各ハザードデータ集 （ICSC(1998)、GESTIS(2006)）の記述に「激しい火傷を起 こす」の表現がある。 ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムについて 目刺激 ウサギ 10mg/24H Rinsed with water 中程度 目刺激 ウサギ 100mg/24H 軽度
生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	水酸化リチウムについて 気道刺激および肺水腫の記述がある（ICSC(1998）、 HSFS(2004)）。
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	水酸化リチウムについて 動物実験で、区分1のガイダンス値内で呼吸器系への影響が 見られた（RTECS(2000)）。また、咳、炎症、呼吸困難を伴 う気管支炎が記載されている（HSFS(2004)）。

**12. 環境影響情報**

製剤についてのデータは無い。

生態毒性	
魚毒性：	ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムについて ミジンコ EC50 0.15mg/L/48hr
その他のデータ：	データなし
残留性/分解性：	データなし

**13. 廃棄上の注意**

残余廃棄物：	還元剤（チオ硫酸ナトリウム）の水溶液に希硫酸を加えて酸性にし、攪拌しながら本品の水溶液を滴下する。反応終了後、反応液を中和し大量
--------	--

容器： の水で希釈して排水する。  
 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。  
 都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

#### 1 4. 輸送上の注意

国連分類： 8（腐食性物質）  
 国連番号： 2680  
 品名： 水酸化リチウム混合物  
 容器等級： II  
 注意事項： 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実にを行う。

#### 1 5. 適用法令

毒物及び劇物取締法： 非該当  
 化学物質管理促進法： 非該当  
 労働安全衛生法： 施行令 18 条の 2 名称等を通知すべき有害物(No.320 水酸化リチウム)  
 消防法： 非該当  
 船舶安全法（危規則）： 腐食性物質（水酸化リチウム）  
 酸化性物質類（ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム）  
 航空法： 腐食性物質（水酸化リチウム）  
 酸化性物質（ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム）  
 港則法： 腐食性物質（水酸化リチウム）

#### 1 6. その他の情報

##### 引用文献

Lovibond Ammonia No.2（Cat.No.00512599、512590、512591、212593） 2007.11.21  
 13901 の化学商品 化学工業日報社  
 化学物質安全情報 研究会編 オーム社  
 化学大辞典 東京化学同人  
 関東化学株式会社 製品安全データシート（水酸化リチウム）  
 和光純薬工業株式会社 製品安全データシート（水酸化リチウム、ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム）  
 安全衛生情報センター <http://www.jaish.gr.jp/>

この製品安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

なお、注意事項は通常の実取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。